

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

第3041191号

(45)発行日 平成9年(1997)9月9日

(24)登録日 平成9年(1997)6月25日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
G 0 9 F 21/04  
15/02

識別記号 庁内整理番号

F I  
G 0 9 F 21/04  
15/02

技術表示箇所

E

評価書の請求 未請求 請求項の数4 OL (全8頁)

(21)出願番号 実願平9-1343

(22)出願日 平成9年(1997)3月5日

(73)実用新案権者 390039099

吉原 利宣

埼玉県草加市花栗3-20-24

(72)考案者 吉原 利宣

埼玉県草加市花栗3-20-24

(72)考案者 宇野 一平

東京都港区麻布十番1-4-8 マドモア

ゼルビル604

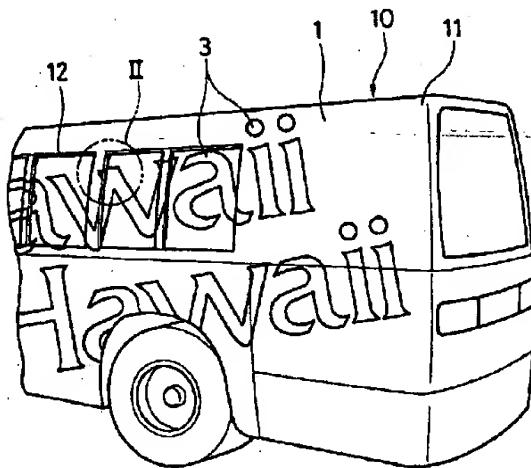
(74)代理人 弁理士 磯野 道造

(54)【考案の名称】 移動車体の広告表示体

(57)【要約】

【課題】移動車体に塗料などで広告内容を記載する構成では、窓部分に広告内容を表示できないため、広告を表示する空間が移動車体の一部に限られ不便であった。また、その広告内容を変更するような場合は、車体に塗布された塗料の上から塗りなおすことになり、不都合であった。車や列車などの移動車体の側面の窓部分に視界を遮らずに、かつ、広告内容を表示できるものの構成が望まれていた。

【解決手段】前記課題を解決する手段として、この考案は、車、列車などの移動車体10の窓12を含む車体11に着脱自在に設けたシート状の広告表示体1で、前記広告表示体は、その広告表示体を貫通する透孔2を全面に設けると共に、その広告表示体の表面に広告を表示する広告表示部3を設け、かつ、その広告表示体の裏面に粘着部4を設けた移動車体の広告表示体として構成した。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】車、列車などの移動車体の窓を含む車体に着脱自在に設けたシート状の広告表示体であって、前記広告表示体は、その広告表示体を貫通する透孔を全面に設けると共に、その広告表示体の表面に広告を表示する広告表示部を設け、かつ、その広告表示体の裏面に粘着部を設けたことを特徴とする移動車体の広告表示体。

【請求項2】車、列車などの移動車体の窓を含む車体に着脱自在に設けたシート状の広告表示体であって、前記広告表示体は、その広告表示体を貫通する透孔を前記移動車体の窓を備える位置に設けると共に、その広告表示体の表面に広告を表示する広告表示部を設け、かつ、その広告表示体の裏面に粘着部を設けたことを特徴とする移動車体の広告表示体。

【請求項3】車、列車などの移動車体の窓を含む車体に着脱自在に設けたシート状の広告表示体であって、前記広告表示体は、その広告表示体を貫通する透孔を前記移動車体の窓を備える位置に設けると共に、その広告表示体の表面に広告を表示する広告表示部を設け、かつ、その広告表示体の裏面に粘着部を設けたことを特徴とする移動車体の広告表示体。

【請求項4】車、列車などの移動車体の窓を含む車体に着脱自在に設けたシート状の広告表示体であって、前記広告表示体は、その広告表示体を貫通する透孔を前記移動車体の窓を備える位置に設けると共に、その広告\*

2

\*表示体の表面に広告を表示する広告表示部を設け、かつ、その広告表示体の裏面に粘着部を設け、前記透孔は、その大きさ形状を不均一に設けたことを特徴とする移動車体の広告表示体。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】この考案の広告表示体を移動車体に貼付した状態を示す斜視図である。

【図2】この考案の広告表示体を拡大した状態の正面図である。

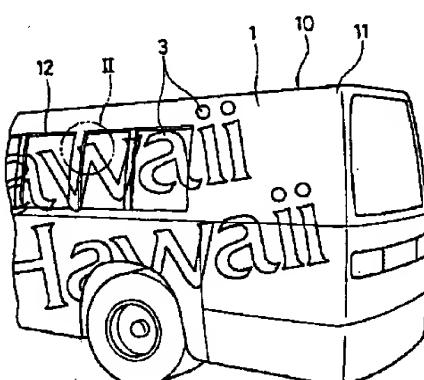
【図3】この考案の広告表示体の透過状態を示す原理図である。

【図4】(a) (b) (c) (d)は、この考案の広告表示体の透孔の応用例を示す正面図である。

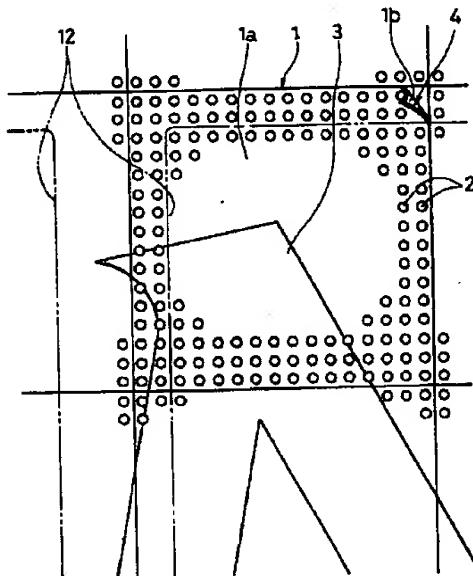
## 【符号の説明】

1	広告表示体
1 a	表面
1 b	裏面
2	透孔
2 a	透孔
2 b	透孔
2 c	透孔
2 d	透孔
3	広告表示部
4	粘着部
1 0	自動車(移動車体)
1 1	車体
1 2	窓

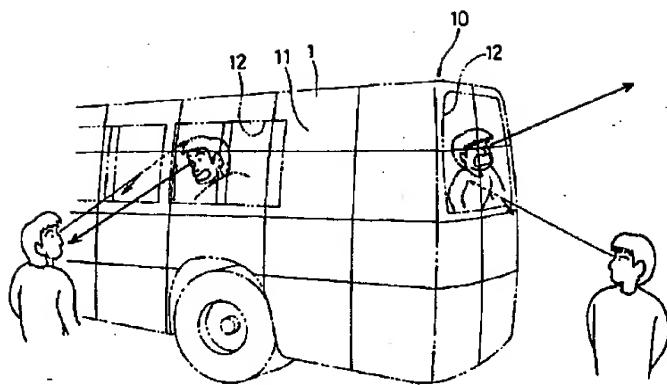
【図1】



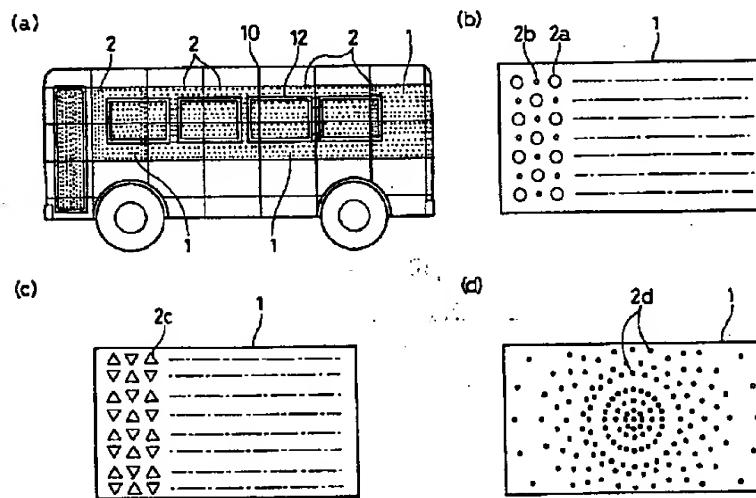
【図2】



【図3】



【図4】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

この考案は、自動車や列車の窓を含む車体に着脱自在に貼付する広告表示体に係り、特に、乗車している人から外部の景色を見ることができると共に、外部から車体の広告および車内の状態が確認することができる移動車体の広告表示体に関する。

**【0002】****【従来の技術】**

一般に、バス、トラック、乗用車などの自動車や、電車、新幹線などの列車に広告の表示を施す場合は、その自動車や列車の窓を除いた車体に塗料などペンキを使用し、広告する内容を表しているのが現状である。なお、車体に広告を表示する塗料などは、天候が雨の場合でも落ちないように、耐水性に優れたものを使用している。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

しかし、従来の移動車体の広告手段では、次のような問題点があった。

① 移動車体に塗料などで広告内容を記載する構成では、窓部分に広告内容を表示できないため、広告を表示する空間が移動車体の一部に限られ不便であった。

**【0004】**

② 従来の広告手段では、移動車体に塗料などで直接表示するため、その広告内容を変更するような場合は、車体に塗布された塗料の上から塗りなおすことになり、その塗料を塗りなおした量だけ車体重量を増えることになると共に、その塗料が厚くなると剥がれ落ち易くなり不都合であった。

**【0005】**

③ 車や列車などの移動車体では、車体に貼付するものは知られているが、安全対策のため、フロントガラスはもちろんのこと、側面の窓部分にも視界を遮るフィルムなどの貼付ができないのが現状であり、窓部分に視界を遮らずに貼付で

き、かつ、広告内容を表示できるものの構成が望まれていた。

#### 【0006】

この考案は、上記の問題点に鑑み創案されたものであり、窓部分にも視界を遮らずに貼付でき、かつ、広告の内容も表示でき、作業上の取り扱いにも優れた移動車体の広告表示体を提供することを目的とする。

#### 【0007】

##### 【課題を解決するための手段】

前記課題を解決する手段として、この考案は、車、列車などの移動車体の窓を含む車体に着脱自在に設けたシート状の広告表示体であって、前記広告表示体は、その広告表示体を貫通する透孔を全面に設けると共に、その広告表示体の表面に広告を表示する広告表示部を設け、かつ、その広告表示体の裏面に粘着部を設けた移動車体の広告表示体として構成した。

#### 【0008】

また、前記透孔は、前記移動車体の窓を備える位置に設ける構成とすることや、その分布間隔を不均一に設けた構成とすることや、さらに、その大きさ形状を不均一に設けた構成としても構わない。

#### 【0009】

##### 【考案の実施の態様】

以下、この考案による室内空気入れ遊戯具を図面に基づいて説明する。

図1は、移動車体に広告表示体を貼付した状態を示す斜視図、図2は、図1のI—I部分の拡大図、図3は、広告表示体を貼付したときの透過性を説明する原理図、図4(a) (b) (c) (d)は、広告表示体に設けた透孔の応用例を示す正面図である。

#### 【0010】

図1および図2で示すように、広告表示体1は、移動車体としての自動車10の窓12や車体11の表面に複数枚が貼付されて広告内容を表示するように構成されている。図2で示すように、前記広告表示体1は、シート状に形成され、自動車10が100km/h以上のスピードで走行しても剥がれることのない粘着性を備えた粘着部4を、その裏面1bに設けている。

**【0011】**

また、前記広告表示体1の表面1aには、前記自動車10の車体全面で一つの広告を表すように、文字や絵柄（図面では文字）があらかじめ印刷されて広告表示部3が設けられている。さらに、前記広告表示体1は、その全面に貫通して透孔2が形成されている。

**【0012】**

前記広告表示体1の透孔2の間隔は、表面1aに表示している広告の文字や絵柄がはっきり外部から確認できる間隔であると共に、自動車10内部から外部の景色や風景がある程度見渡すことのできる間隔で設けられている。

**【0013】**

したがって、図3で示すように、前記広告表示体1を自動車10のフロントガラスを除く他の部分に貼付した場合、自動車10の内部にいる乗客からは、外部の景色や風景などが、その広告表示体1に設けた透孔2から支障なく見渡すことができる。一方、自動車の外側から、その広告表示体1を見渡した場合は、広告表示部3は完全に確認できると共に、自動車10内にいる乗客の人影が、前記広告表示体1の透孔2から確認できるものである。

**【0014】**

また、前記広告表示体1は、その裏面1bの粘着部4を、その車体10からはぎ取ることで、他の広告内容を表す広告表示体1と張り替えができるため、車体を傷つけることなく張り替え作業ができるものである。また、張り替えるため、広告内容が変わっても、ペンキなどと異なり車体が重くなることはない。

**【0015】**

なお、前記透孔2は、広告表示体1の全体に設けた構成としているが、図4(a)で示すように、自動車10の窓12の位置に配置される広告表示体1の位置に設ける構成としても構わない。なお図4(a)では、自動車10の窓12の位置に配置される広告表示体1の全面に透孔2を設けた構成としているが、その広告表示体1の窓12の位置のみに透孔2を設けるように、あらかじめ設定する構成としても構わない。

**【0016】**

また、図4 (b) で示すように、広告表示体1に設けられる透孔2a, 2bの大きさを異なるものとして(図では大小2種類)形成しても良く、その場合、大きさは3種類以上であっても構わない。透孔2a, 2bの大きさを変える場合、その設置間隔は、一定としても良く、あるいは、透孔2a, 2bの配置が密の位置と粗の位置ができるように設定しても構わない。

#### 【0017】

さらに、図4 (c) で示すように、透孔2cの形状は、多角形(図面では三角形)であって、正方形や長方形あるいは平行四辺形などの四角形や、二等辺三角形や正三角形などの三角形であっても良く、あるいは橢円形や三日月形、星型などの形状であっても構わない。前記透孔2cの形状は、その広告表示体に表示される広告内容のデザインに対応させて構成することが望ましい。透孔2cの形状を丸以外にする場合、その設置間隔は、一定としても良く、あるいは、透孔2cの配置が密の位置と粗の位置ができるように設定しても構わない。

#### 【0018】

そして、図4 (d) で示すように、透孔2dの設置間隔は、窓12の中心側が密で外側に向かうにしたがって粗になるように配置しても良く、この場合、透孔の形状や大きさは、図4 (b) (c) で示すようなものでも構わない。

#### 【0019】

なお、前記移動車体では、自動車(バス)を例として説明したが、電車、汽車、モノレール、新幹線、などの列車や、乗用車、タクシー、などの他の自動車に対して上記構成の広告表示体が使用できることは勿論である。

#### 【0020】

##### 【考案の効果】

この考案は、上記の構成により以下に示す優れた効果を奏する。

広告表示体は、その裏面に粘着部を設けると共に、その表面に広告を表示する広告表示部を設け、かつ、その広告表示体の全面に渡って透孔を設けているため、自動車や列車などの移動車体の窓を含む車体全体に貼付して表示でき、広告を表示する部分に規制されることはなく広告表示を外部から見る人に見易くかつ印象的に表示することができる。そして、移動車体の内部にいる人からは、広告表

示体に設けた透孔を介して外部の景色や風景を見ることができる。

【0021】

また、広告表示体は、その裏面に設けた粘着部により、移動体の表面に付着する構成としているため、広告表示体の表面の広告内容を変えたい場合は、移動車体に付着した広告表示体を剥がして取り外し、新たに構成した広告表示体をその移動車体に貼付する作業ができるため、広告表示体の取り付け、取り外し作業が容易でかつ、車体を傷つけることがない。

【0022】

さらに、広告表示体に設けた透孔の構成を移動車体の窓の位置に配置することで広告表示体に形成する透孔の作業が省略できると共に、表された広告の線画をハッキリと表示することが可能となる。

そして、広告表自体に設けた透孔の大きさや形状を異ならせることや、設置間隔を異ならせることで、内部からの透過性を調整でき都合が良い。